

「4 外出中に大地震が起こったら」

- 学習のねらい： 1. 場所ごとに、さまざまな危険が考えられることを認識する。
2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を理解する。
3. 避難場所や避難時に注意すべきことを理解する。

(指導上のポイント)

- ◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
- ◆絵の中で考えられる危険の他に、2次災害として、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）液状化現象などが考えられるが、地域の実情に応じて追加する。
- ◆各自が外出時によく行く場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- ◆絵の場所での危険回避方法についても考えさせる。
- ◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合は危険箇所をあらかじめ知っておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

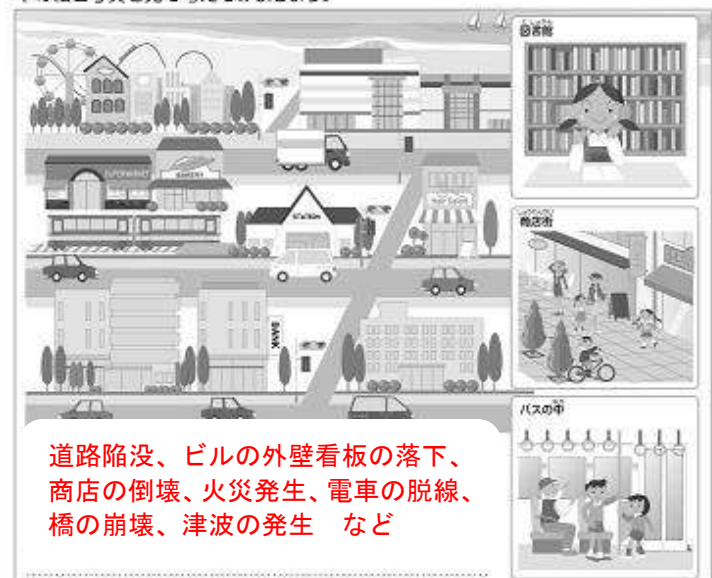
(次年度以降の展開例)

- ・ 地域の地図を用意し、自分がいる場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- ・ 休日に家族などに出かけた時に、そこで地震が起こったらどうするかを家族と話し合う。などが考えられる。

4 外出中に大地震が起こったら

(1) 外出しているときに危険なこと

外出中に地震が起こったら、どんな危険なことが起こるでしょうか？
下の絵と写真を見て考えてみましょう。



【地震による被害】



「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に。

【発展問題】

○地震後、けがをしている人や火事を見つけた時、どのようなことができるでしょうか。

(回答例) 近くの大人を呼んで助けを求める。119番に電話する。声をかけてけが人を励ます。

(2) 外出しているときに大地震が起こったら

どうしたら身を守ることができるでしょうか？下の絵を見て考えたことを書いてみましょう。

場所	予想される危険	身の守り方
	窓ガラスの破損	頭を守り、割れたガラスに気をつける。
	津波の発生	高い場所へ逃げる。
	崖の崩落	崖から離れる。
ほかに、どんな場所が考えられますか。書いてみましょう。		
遊園地	乗り物の落下	乗り物から離れる。
電車	電車の急停止	手すりにつかまる。
映画館	照明の落下	座席を上げしゃがみ、頭を守る。

【火事から避難するときは】

- 火事の際は、一酸化炭素などの有毒ガスが発生するので、けむりの中を避難するときは、ハンカチなどを口、鼻にあてて、できるだけ低いせいで避難しよう。
- いったん避難したら、家の中へはもどらない。
- 火が広がるおそれがあるときは、公園などへ避難しよう。



10

(指導上のポイント)

◆地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して身を寄せ、自分で自分の身を守ることを指導する。

◆揺れがおさまった後の、適切な避難行動について、本冊 P6 のなまず博士の「ゆれがおさまって、避難するときは・・・」を参考に説明する。

また、ひとりで出かけて避難した後、あるいは家族など同行者と離れ離れになった後、どうするかを考えさせる。

【回答例】付近の大人や係員の指示に従う。

◆大雨が降っている等の悪天候の場合や夜間における危険回避方法についても指導する。

- ・雨の日であれば、レインコートを着る。
- ・夜間時であれば、懐中電灯を持つ。

《重要》

火事は津波とともに代表的な二次災害であることから、必ず注意喚起を行う。

また、ハンカチのほかにタオルや服を使ってもよいことを指導する。

(確認)

外出先にはさまざまな危険があることを知り、危険を回避したあとで、知り合いがいない可能性が高い中、どうすれば無事、家に帰りつけるかを想像できたか。

【発展問題】

自分たちの住んでいる地域には、地名や記念碑など、防災に関する言い伝えなどがいないか調べてみよう。(ねらい) 過去の災害から防災・減災を学ぶ。